

眼とメガネの健康情報

メガネデザインの流行とファッションの関係

メガネデザインは様々ありますが、その時代のファッションや音楽の流行と密接な関係があります。ここで年代別に流行ったファッションとメガネ、サングラスのデザインについて簡単に振り返ってみましょう。

1950年代

50年代はアメリカでウェリントン型のメガネが流行りました。



そしてRayBanサングラスの代表モデル「WayFarer（ウェイファラー）」がデビューしたのもこの頃です。レディースでは

今見ても新鮮な「キャットアイ」フレームの眼鏡やサングラスが流行りました。



キャットアイモデルの最も有名な愛用者はマリリン・モンローです。

1960年代

60年代はミニスカートなどミニマムなファッションが流行りメガネやサングラスもファッションの一部として注目される様になります。又ジョン・レノンに代表される「丸メガネ」も流行しました。

1970年代

70年代はファッションもより多様化してきます。多くの若いデザイナーが活躍し、フォークロア、パンタロン、そしてサイケファッションが流行。



又それに合わせて大型フレーム（オーバーサイズ）が大流行し、特にサイケな色柄は若者に人気を集めました。ディオールは昔も今もオーバースイズの代表格です。この時代は新素材レンズの開発もあり格段にデザインの幅が広がったのです。

1980～1990年代

80～90年代は機能的なデザインが多く、ブランドで開発され、交換可能レンズやチタンフレーム、縁なしなどが出てきました。最もポピュラーなデザインはボストン型の丸いセルフレームです。又サングラスはRayBanのWayFarerも流行った一方、ヒップホップの影響もあり太くて重たいデザインが多く出てきました。



そして今、再びクラシカルでレトロなモデルが復活し、流行は繰り返されています。この様にファッ

ションと平行してメガネ、サングラスの流行も時代と共に形や大きさが変わって行くのが良く分かります。今の時代は個性が重要視される時代ですがオシャレと共に個性を磨いてみてはいかがでしょうか？

今号のコラム

昨年、神奈川県三ツ沢東町にツリーハウスで出来たカフェがオープンしている事をご存知でしょうか？この冬には、ドラマのロケ地としても使われていたとても個人的なカフェです。

木は、日々成長します。そのため調理場を一階の別の場所に作らなければいけなかったそうです。営業日が少なく、営業時間もとても短いので、入れない事を承知で行かれる事をおすすめします。雨の日、風の日はもちろんお休みです。

これからの新緑の季節は、風も心地よい季節です。大人も子供の頃に帰って、木登り感覚を味わって見るのも良いかと思えます。 中山店 S

メガネ作りは、知的で高度な技術の作業です。

ベターなものよりベストなものへ

あなたの目を守る — メガネ専門店



Optical Shop

Nakamura

中山駅前店

〒226-0014 横浜市緑区台村町290
☎ (045)931-2499(代) AM10:00~PM8:00
<年中無休> 中山商店街第1・第2駐車場 (1時間無料)

鴨居駅前店

〒226-0003 横浜市緑区鴨居1-7-1
☎ (045)933-0003(代) AM10:00~PM8:00
<年中無休>

ららぽーと横浜店

〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4035-1(3F)
☎ (045)414-2424(直) AM10:00~PM9:00
<年中無休>